



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	巻頭言 : 経営形態の成立
Author(s)	矢島, 武
Citation	季刊農業経営研究, 5, 1-2
Issue Date	1959-01-20
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/36287
Type	departmental bulletin paper
File Information	5_1-2.pdf



農業経営研究

北海道大学農業経営学研究室内農業経営研究会発行

季刊・第5集

巻頭言・経営形態の成立

ある特定の地帯にある特定の農業経営形態が成立するメカニズムを説明するために、いわゆる「相対的優位性の原理」が採用されることは周知の通りである。例へばAなる地帯では、乾草が2.5トン、玉蜀黍ならば60ブッシェルとれるが、B地帯では乾草1.5トン、玉蜀黍は30ブッシェルとれると仮定すれば、B地帯はA地帯に比較して乾草の収量も玉蜀黍のそれも断然低い。かかる意味でB地帯はA地帯に比し低生産性地帯である。しかしこのことはB地帯に農業経営が成立せぬことを意味しない。何故か。それは相対的優位性の原理が働くからであるとされる。すなわち相対的にみるならば、A地帯は乾草のそれにおいて優位性を示している。A地帯では乾草1トンに対し玉蜀黍24ブッシェルが対応し、B地帯では乾草1トンに対し玉蜀黍20ブッシェルが対応している。それでも、もしここに統一的な市場が成立し、同一作物に対し同一価格が成立しているものとすれば、A地帯では乾草を作らずに玉蜀黍を作った方

が乾草をより安価に手に入れることができる筈であり、Bの場合は逆に乾草生産に専念することにより、より安価に玉蜀黍を人手でできる筈である。すなわち、Bは玉蜀黍を作るより乾草を作ることによつて玉蜀黍30ブッシェルの代りに玉蜀黍36ブッシェルをうる事が出来る。かくすることによつてBの地代は6ブッシェル高められる。もちろん、この場合、輸送費などはネグリジブルと考へる。かくてA地帯農業経営形態は玉蜀黍に収斂し、B地帯のそれは乾草に収斂する。

このことは、理論的にかくあるべきであるのみならず、多くの実証的データによつても検証されているところである。例へば、イリノイ州のシャンペイン郡とマジソン郡とでは玉蜀黍と小麦の収量は各々次のようで、両作物ともシャンペインで絶対的優位性を示しているにもかかわらず、相対的にはシャンペインは玉蜀黍においてすぐれ、マジソンは小麦にすぐれている。事実マジソンは、コーンベルトにありながら、小麦の作付面積の方が玉蜀黍のそれより大きいのである。

ところで、かかる「相対的優位性の原理」が作用するためには、農業が商品生産化し市場が広汎に成立していることが必要である。又このことは資本制地代（貨幣地代）が成立していることの必要を意味する。もし地代が物納として、あるいは金納であつても、特定の作物の収納に着目して行なわれるものであるならば、それだけ相対的優位性の成立を阻げることになる。もしそうであるなら前述のシエーマのような計算はできない筈である。一般に市場の拡大は絶対地代の比重を低め、それだけ経営形態の地域的分化の成立をたすける。しかるに市場がローカルなものであればあるほど相対的優位性がでてこなくなる。又農業経営がなお商品生産化せず、自給を主目的とし、あるいは家計補助的意味で行われる場合にも、前記のシエーマはなりたたなくなる。さて、北海道の多くの地方では、なお、農業経営形態が安定したものとして確立していない。例へば、天北地帯の農業経営はその典型的なものの一つであるがこの地帯の相対的優位性はまぎれもなく飼料作物にある。従つてこの地帯の農業経営は、結局、酪農経営に収斂さるべ

きものと考へられる。

しかるに現況は、飼牛農家は全体の3割程度にすぎない。この原因としてまず第一にあぐべきは7割4分にも及ぶ零細な兼業農家の存在である零細性の解消なしには、相対的優位性の原理の貫徹を期待することはできぬ。次に指摘さるべきは、市場の狭さである。このことは道路、その他交通機関の不備と密接な関係がある。陸の孤島の状態を脱却せしむることが先決問題である。

一般に農業技術の進歩は、相対的優位性の存在を一層鮮明にする。その効果は相対的優位性をもつ作物において最も高い。しかるにかかる認識がしばしばかけられている。他地方において相対的優位性をもつ作用の技術的進歩をそのまま模倣しても状態はかへつて悪化する。何となれば、その技術は他地帯の優位性をますます大ならしめるからである。いまその地帯が飼料作物に優位性がありとすれば、飼料作物に関する農業技術の進歩に最大の関心を払うべきである。このことが投資効果を大ならしむる所以でもある。

矢 島 武

シヤンペイン			マジソン	
	エーカー当り収量	エーカー当り純収益	エーカー当り収量	エーカー当り純収益
玉蜀黍	50.5ブツシエル	39.65ドル	37.7ブツシエル	26.22ドル
小麦	20.8	22.03	19.0	17.37

(Case& Johnson Principles of farm Management P87)